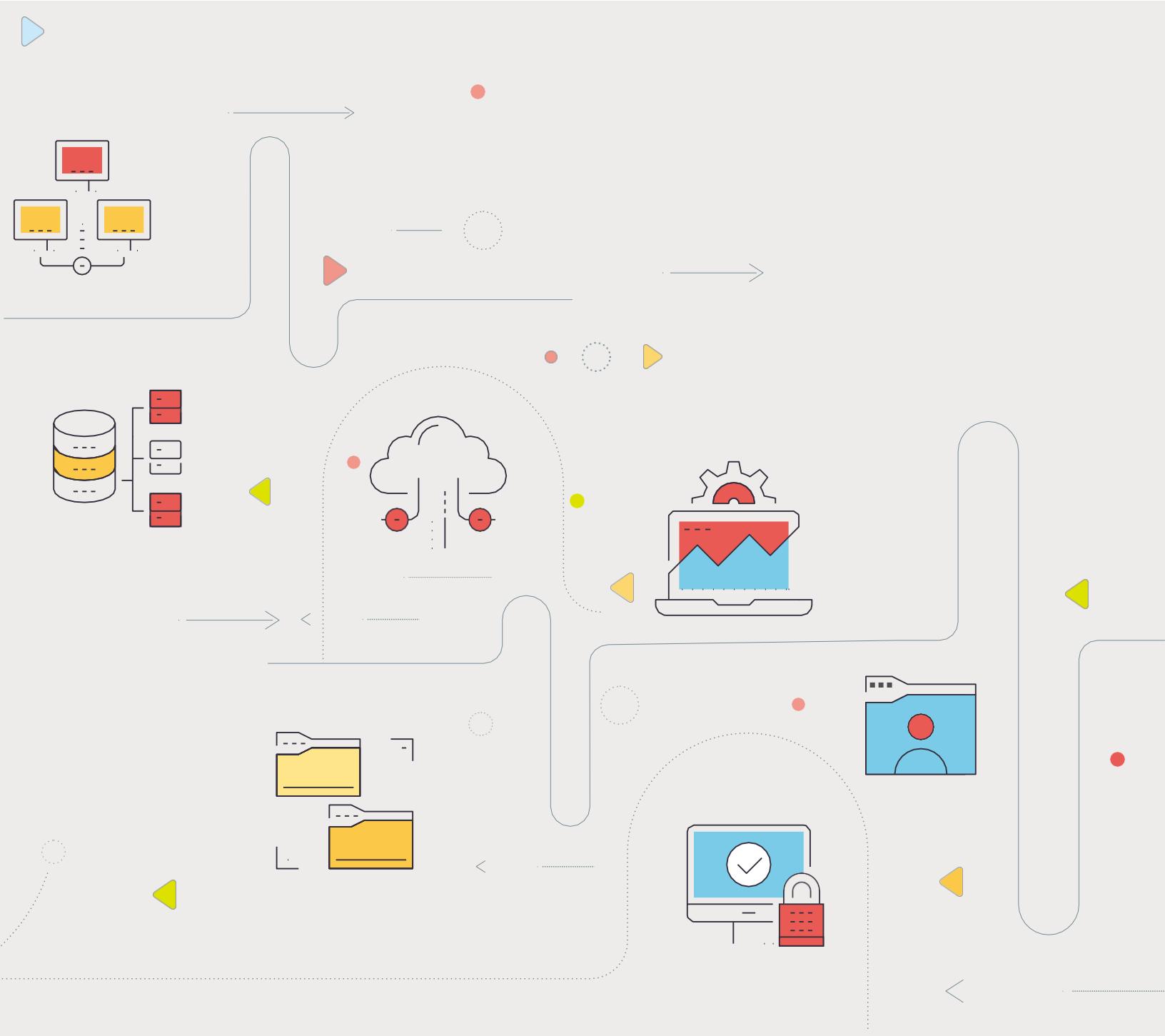


スタートアップガイド

Patch Manager Plus Cloud



目 次

1 システム要件

2 アカウントの作成

3 管理対象の定義

4 エージェントのインストール

5 パッチ管理のセットアップ

6 パッチの配布

7 パッチ配布結果の確認

8 トラブルシューティング

□ 注意事項

本ガイドの内容は、改良のため予告なく変更することがあります。
当社はこのガイドを使用することにより引き起こされた偶発的もしくは間接的な損害についても、責任を負いかねます。

□ 商標一覧

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
Windows, Windows Server, Active Directory, SQL-Server, Microsoft Office, Microsoft Edge, Microsoft Intune および Intune は、
米国およびその他の国における米国 Microsoft Corp. の商標または登録商標です。

Linux は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。

CentOS は、Red Hat, Inc. の商標です。

その他記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。なお、本ガイドでは、(R)、TM 表記を省略しています。

1. システム要件

Patch Manager Plus Cloud を利用するためには必要なシステム要件は以下の通りです。

▶ システム要件:

https://www.manageengine.jp/products/Patch_Manager_Plus/system-requirements.html
(オンプレミス版・クラウド版共通のページです。「クラウド版」を選択してご覧ください。)

Patch Manager Plus Cloud エージェントの最小ハードウェア要件

Patch Manager Plus Cloud の管理対象に追加するコンピューターは、以下の要件を満たす必要があります。

プロセッサー ^{*1}	メモリー	ハードディスク容量 ^{*2}
Intel Pentium 1.0 GHz 以上	512.0 MB 以上	3 GB 以上 ^{*1}

*1 Armプロセッサーにも対応していますが、ご購入前の検証を強く推奨いたします。

*2 この容量はパッチファイルを含みません。実際に必要な容量は配布するパッチによって異なります。

なお Patch Manager Plus Cloud では、インターネット接続のないコンピューターを管理することはできません
(インターネットのない環境でのパッチ管理には、オンプレミス版の Patch Manager Plus をご検討ください)。

Patch Manager Plus Cloud で管理可能なOS^{*3}

Patch Manager Plus Cloud を使用して管理できるOSは以下の通りです。

- Windows 11
- Red Hat Enterprise Linux
- Windows 10 ^{*4}
- CentOS Stream
- Windows Server
- SUSE Linux Enterprise
- macOS
- Oracle Linux
- Ubuntu
- Rocky Linux
- Debian
- Amazon Linux

*3 各OSの対応バージョンは上記のURLよりシステム要件のページをご覧ください。

なお、Linux OS はカーネルバージョンが 2.6.33 以上のOSをサポートしています。

*4 Windows 10はMicrosoftサポート期間中の環境（ESU適用済み、および長期サポートエディション）のみ対応しています。

Patch Manager Plus Cloud の配信サーバー

Patch Manager Plus Cloud では、必要に応じて配信サーバーを設置できます。

1拠点あたりの台数が多い場合など、パッチ配布時の帯域幅を抑えたい場合に配信サーバーを設置します。また、Active Directoryとの同期を有効化する場合や Java SE など一部のサードパーティ製品のパッチを配布する場合にも、配信サーバーが必要です。

- ▶ システム構成に関するナレッジ:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=51

- ▶ 配信サーバーのインストール方法:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=150

コンソール対応 Webブラウザー

Patch Manager Plus Cloud コンソールにアクセスする際、以下の Web ブラウザー^{*5}を使用できます。

- Microsoft Edge (Chromium版、最新版の利用を推奨します)
- Mozilla Firefox (44 以降、最新版の利用を推奨します)
- Google Chrome (47 以降、最新版の利用を推奨します)
- Zoho Ulaa (2.0.0 以降、最新版の利用を推奨します)

*5 コンソール画面を表示させる画面解像度は1280×1024ピクセル以上が必要です。



(参考) サポートするアプリケーション

Patch Manager Plus Cloud がサポートするアプリケーションは、以下をご覧ください。

- ▶ サポートするアプリケーション一覧:

https://www.manageengine.jp/products/Patch_Manager_Plus/supported-applications.html

- ▶ サポートするアプリケーション一覧（ナレッジ）：

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=568

2. アカウントの作成

Patch Manager Plus Cloud を利用するには、Zoho アカウントが必要です。

● Zohoアカウントを既にお持ちの場合

Zoho のクラウドサービスを既に利用している場合は、Patch Manager Plus Cloud 評価版のページから先に進むと、既存のアカウントで自動的にログインできます。

● Zohoアカウントをお持ちでない場合

Zoho のクラウド製品に初めてアクセスする場合は、Patch Manager Plus Cloud 評価版のページから先に進み、以下の情報を入力して Zoho アカウントを作成します。なお、アカウント作成時に利用するデータセンター（日本、米国、中国、EU、英国 など）を選択します。

▶名前

▶会社名

▶メールアドレス

▶電話番号

ここで入力された組織の詳細は機密事項です。ここで作成したアカウントが「スーパー管理者」となります。

▶ 評価版（オンプレミス版・クラウド版共通のページです。「クラウド版」を選択してください。）：
https://www.manageengine.jp/products/Patch_Manager_Plus/download.html

▶ サインアップ～ログインまでの詳しい手順：
https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=126

▶ ユーザーの追加：
https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=355

1 ご入力いただいたアドレスに確認メールが送信されます。

確認が完了すると、アカウントが作成されます。

2 コンソールにリダイレクトされます。

今後、Zohoアカウントから製品コンソール画面にアクセスできます。

3 製品ユーザーを追加する場合、[管理]タブ > [グローバル設定] > [ユーザー管理] より追加すると、入力したメールアドレスに招待が送信されます。

3. 管理対象の定義

Patch Manager Plus Cloud の管理対象には、かならずエージェントをインストールする必要があります。

3-1 から 3-2 の順に設定し、管理対象を定義します。

3-1. リモートオフィスの追加

エージェントは必ずいずれかのリモートオフィスに所属し、デフォルトでは「Default Remote Office」に所属します。

利用環境に応じてリモートオフィスの設定を編集し、必要な場合に新規リモートオフィスを追加します。

- 配信サーバーを設置する場合は、リモートオフィスの作成時に選択します。
- プロキシ経由でインターネットに接続する環境では、プロキシの詳細情報をリモートオフィスの設定に登録します（エージェントや配信サーバーのインストール前に設定する必要があります）。

1 [エージェント] タブへ移動し、左側のメニューから [リモートオフィス] を開きます。

2 新規にリモートオフィスを作成する場合、[リモートオフィスの追加] をクリックします。

既存のリモートオフィスを編集する場合、スクロールバーを右に移動させ、編集するリモートオフィスの「アクション」列の三点リーダアイコン > [編集] をクリックします。

3 必要に応じてリモートオフィス名を編集します。

4 通信タイプを選択します。

- 配信サーバーを設置しないリモートオフィスの場合は「直接通信」を選択します。
- 配信サーバーを設置するリモートオフィスの場合は「配信サーバー (DS) による」を選択し、配信サーバーとなるコンピューターの情報を入力します。詳細は 3-2 をご覧ください。

5 複製ポリシー^{*3}（デフォルトでは「DefaultReplicationPolicy」）を選択します。

- 複製ポリシーは、各リモートオフィスで使用する帯域や通信間隔を指定します。必要に応じて [ポリシーの作成] をクリックし、新しい複製ポリシーを作成します（複製ポリシーにおいて帯域制御が可能です）。

6 プロキシ経由で接続する場合、「プロキシ設定」にチェックを入れて詳細を入力します。

- プロキシ設定は、配信サーバーやエージェントのインストール前に設定する必要があります。プロキシ設定を編集した場合、配信サーバーやエージェントを再インストールする必要があります。

7 [追加] をクリックします。

以上の手順でリモートオフィスが作成されます。製品版・評価版では作成できるリモートオフィス数に制限はありません。

▶ リモートオフィスの作成:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=150

3-2. 配信サーバーのインストールとADとの同期

配信サーバーの設置は、拠点の帯域幅消費を抑制するのに役立ちます。配信サーバーを設置する場合、配信サーバーをインストールします。（配信サーバーを設置しない場合は 4 へ進みます。）

- 1** [エージェント]タブへ移動し、左側のメニューから[リモートオフィス]を開きます。
- 2** 3-1. リモートオフィスの設定で追加したリモートオフィスの「エージェントのダウンロード」列のサーバーアイコンをクリックし、配信サーバーのインストーラーをダウンロードします。
- 3** インストーラーを実行します（なおインストールを実行するコンピューターが、3-1.において指定した内容と一致していない場合、インストールは中断されます）。
- 4** 完了後、配信サーバーのフォルダーをアンチウイルスソフトの例外として登録します。

続いて、ADと同期^{*6}する場合は以下の手順を実行します。

- ◇ ADドメイン環境では、配信サーバーを設置することでADサーバー（ドメインコントローラー）との同期が可能です。ADサーバーと同期することにより、以下の機能を使用できるメリットがあります。
 - パッチの配布対象としてOUを指定
 - ドメインやOUと同期したカスタムグループを作成可能
 - ドメインに参加した新規コンピューターにエージェントを自動インストール
 - ドメインから離脱したコンピューターでエージェントを自動アンインストール

- 5** [エージェント]タブへ移動し、左側のメニューから[ドメイン]を開きます。
- 6** [+ドメインの追加]をクリックして**Active Directory**を選択し、詳細情報を入力します。^{*6}

パラメーター	値の説明
ドメイン名	コンソール画面上での表示名を入力します。(例)mydomain
ドメインユーザ名	ドメインの管理者権限をもつユーザー名を入力します。
パスワード ^{*4}	ドメインの管理者権限を持つユーザーのパスワードを入力します。
ADドメイン名	ADドメインのFQDNを入力します。(例)mydomain.lan
ドメインコントローラ名	配信サーバーからホップ数の小さいドメインコントローラーを指定します。
AD Connector ^{*5}	指定したドメインコントローラーと通信可能な配信サーバーを指定します。

- 8** 続いて同期を実行する時刻を入力したら、ドメイン情報を保存します。

*3 「複製ポリシー」で指定した帯域は、クラウドと配信サーバー間の通信およびクラウドとエージェント間の通信に適用されます。配信サーバー・エージェント間の通信には適用されません。

▶ 複製ポリシー

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=431

▶ 帯域消費の抑制

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=1095

*4 ドメインの資格情報は、ドメイン全体に対して管理者権限を持つ必要があります。資格情報はクラウド上に暗号化して保持され、エージェントのインストールにのみ使用されます。ADと同期する場合、この資格情報の登録が必須です（AD環境でご利用いただく場合、必ずしもADと同期する必要はありません）。

資格情報の入力を避けたい場合、ADと同期しない運用をご検討ください（Patch Manager Plus Cloud上でワークグループとして扱うことが可能です）。

*5 ADコネクターに設定された配信サーバーは、ADサーバーと定期的に同期します。LDAP SSLを使用して同期する場合は「LDAP SSLを使用する」にチェックを入れます。

*6 ワークグループを登録する場合は、以下のナレッジをご覧ください。また、ドメインに参加/離脱したコンピューターへエージェントを自動インストール/自動アンインストールする場合は、[エージェント]タブ > [配布] > [AD同期設定] または [非アクティブコンピューターポリシー] を設定します。

▶ 通信ポート

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=574

▶ AD同期設定

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=751

▶ ドメイン/ワークグループの登録

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=728

▶ 非アクティブコンピューターポリシー

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=2169



4. エージェントのインストール

リモートオフィス（および配信サーバーの設定）が完了したら、Patch Manager Plus Cloud エージェントを管理対象となるすべてのコンピューターにインストールします。

- エージェントのインストールには複数の方法があり、エージェントの一括インストールには**ADグループポリシー（GPO）を利用する方法**のほか、他の資産管理ツール等でエージェントの配布が可能です。特定のインストール方法に問題がある場合は、他の方法をお試しください。
- Linuxエージェントを有効化するには [エージェント] タブ > [エージェント設定] > [Linuxエージェントの設定] を開き、Linuxが所属する既定グループ（デフォルト: linuxosgroup）を選択する必要があります。
- エージェントのインストールの完了には Patch Manager Plus Cloud との通信が必要です。インターネット接続のある環境でエージェントをインストールしてください。
- エージェントのインストールが完了すると [エージェント] タブ > [PC] 上に「承認待ち」として追加され、承認すると管理対象として登録されます。この承認ステップをスキップする場合、[エージェント] タブ > [エージェント設定] > [一般設定] > 「エージェントのインストール後に実行するアクション」> 「Enable "Waiting for Approval" option after agent installation」のチェックを外して [保存] をクリックします。
- エージェントのインストール後、エージェントフォルダーを必ずアンチウイルスソフトの例外に設定します。また、エージェントに必要な通信を許可します。
- Windows/Macエージェントに表示される通知を無効化するには、[エージェント] タブ > [エージェント設定] > [エージェントトレイアイコン] を開き、「設定中とパッチスキャン中に、情報バルーンを表示します」のチェックを外して [保存] をクリックします。

▶ サインアップ～セットアップの詳細な手順:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=736

▶ エージェントのインストール方法:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=58

▶ エージェント設定

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=321

▶ アンチウイルスソフトの除外登録:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=368

▶ 通信ポート

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=574

▶ 通信の許可が必要なドメイン

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=83

A. インストーラーの実行

- 1** [エージェント]タブへ移動し、左側のメニューから[PC]を開きます。
- 2** 右上の[エージェントのダウンロード]をクリックし、リモートオフィスおよびプラットフォームを選択して[エージェントのダウンロード]からダウンロードします。
- 3** インストーラーを実行します。
- 4** エージェントフォルダーをアンチウイルスソフトの例外として登録します。

B. グループポリシー(GPO)を利用した配布

- 1** [エージェント]タブ > [エージェントインストール]を開き、[GPO] > 「エージェントのダウンロード」から、エージェントを所属させるリモートオフィスを選択します。
- 2** ナレッジの手順に沿ってグループポリシーを構成します。
 - ▶ ドメインのGPOを利用したWindowsエージェントの自動インストール
https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=58#GPO
- 3** コンピューターを再起動させます（スタートアップスクリプトによりエージェントがインストールされます）。
- 4** エージェントフォルダーをアンチウイルスソフトの例外として登録します。

C. 他の資産管理ツール等を使用した配布

- 1** [エージェント]タブへ移動し、左側のメニューから[PC]を開きます。
- 2** 右上の[エージェントのダウンロード]をクリックし、リモートオフィスおよびプラットフォームを選択して[エージェントのダウンロード]からダウンロードします。
- 3** インストーラーにサイレント引数をつけ、資産管理ツールから配布します。
 - (例) "agent.exe" /silent
- 4** エージェントフォルダーをアンチウイルスソフトの例外として登録します。

▶ (参考) Installing agents using Microsoft Intune (Microsoft社)
<https://www.manageengine.com/patch-management/help/managing-computers-in-lan.html#install-using-msintune>

- リモートオフィス間を管理対象コンピューターが移動する場合、「IPスコープ」機能を利用して自動的に通信先が変更されるように設定します。
- リモートオフィスよりも細かくグループ化するには、「カスタムグループ」を作成して対応します。
- パッチを本番環境へ配布する前にテスト用端末に配布する「パイロット運用」をする場合は、作成したカスタムグループにテスト用端末を所属させ、「テストグループ」として選択します。詳細は「パッチテストと承認設定」ナレッジをご覧ください。

▶ IPスコープ

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=410

▶ カスタムグループ

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=445

▶ パッチテストと承認設定

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=847

D. エージェントのアンインストール

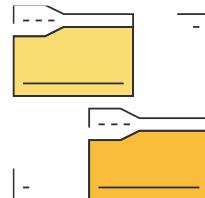
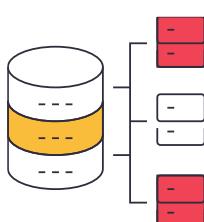
- エージェントをアンインストールする方法は「エージェントのアンインストール」ナレッジをご覧ください。
- エージェントのアンインストール時に「OTP」（ワンタイムパスワード）の入力を求められた場合は、[エージェント]タブ > [エージェント設定] > [エージェント保護設定]において「ユーザーによるエージェント/配信サーバーのアンインストールを制限する」が有効になっています。[エージェント]タブ > [PC]を開き「ワンタイムパスワードの表示」をクリックして表示される数字を入力するか、または設定を変更して保護設定を無効化します。

▶ エージェントのアンインストール

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=265

▶ エージェント設定

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=321



5. パッチ管理のセットアップ

管理対象の定義が完了したら、続いて初期設定を完了させます。Patch Manager Plus Cloudのセットアップが完了すると、パッチ管理を始めることができます。

- [管理]タブを開き、「パッチ設定」→「パッチDBの設定」を開きます。

▶ パッチDBの設定:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=316

- Patch Manager Plus Cloud で管理するパッチの種類を Windows, Mac, Linux それぞれについて選択します。

▶ パッチの種類:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=318

- 必要な場合は、更新済みパッチの管理を有効化します。

▶ 更新済みパッチの管理（パッチ管理機能の仕様変更・機能強化）:

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=947

- [保存]をクリックします。

- [システム]タブ > [システムスキャン] へ移動します。

- パッチスキャンを実行するコンピューターにチェックを入れ、[システムスキャン] をクリックし、しばらく待ちます（手動スキャン）。

- スキャン完了後、結果が更新されます。（以降、スキャンは定期的に自動実行されます）



6. パッチの配布

セットアップ完了後、管理対象コンピューターでパッチスキャンが実行され、結果がPatch Manager Plus Cloud のコンソール画面に表示されます。「ホーム」タブには管理対象全体の情報が表示されるほか、グラフや数字をクリックすることで詳細情報が表示されます。また、パッチ単位で確認する場合は「パッチ」タブを、コンピューター単位で確認する場合は「システム」タブを開きます。

▶ パッチタブ/システムタブの各ビューについて

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=1146



IT管理者は状況を確認し、検出された**「欠落パッチ」**を適用します。どのパッチを配布するかは企業や組織の方針によって異なりますが、基本的には**「欠落パッチ」**として検出されるパッチを減らすように運用します。

欠落パッチを配布する方法は**「手動配布」と「自動配布」**の2通りあり、Windows 11 や Mac などクライアントOSのパッチ管理の自動化を積極的に進めたい場合は**「自動配布」**を中心に、Windowsの機能更新プログラムやサーバーのパッチなど、パッチを慎重に適用する場合は**「手動配布」**を中心に構成します。必要に応じて自動配布と手動配布を組み合わせ、運用方針に合った構成を作成します。

なお、手動配布と自動配布のどちらにおいても、指定した曜日/時間帯に配布を実行できます。時間帯や通知/再起動の実行などを**「配布ポリシー」**で定義し、手動配布や自動配布の構成時に配布ポリシーを一つ選択します。

▶ 手動配布の構成

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=229

▶ 自動配布（パッチ配布の自動化）の構成

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=838

▶ 配布ポリシーの作成

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=327

- ◇ 特定のアプリケーションを Patch Manager Plus Cloud の管理対象から除外する場合は、そのアプリケーションをパッチDBの設定において管理対象から除外するか、またはパッチの拒否を設定します。
- ◇ 本番環境に適用する前にテスト環境へ適用し、業務への影響を確認するパイロット運用がある場合は、テスト環境となるコンピューターをテストグループに登録し、「パッチテストと承認設定」を構成します。
- ◇ 機能更新プログラム（Feature Update）の配布を実施する場合は、ナレッジベースにて手順をご確認ください。また、Windowsの月例パッチを配布する場合はWindows Updateを停止し、自動配布などの方法で配布します。
- ◇ 配布したパッチをアンインストールする場合は、手動配布において「パッチのアンインストール」を選択します。なおベンダーがアンインストールをサポートしているWindowsパッチのみアンインストール可能です。

A. 特定のパッチを配布する（パッチの手動配布）

手動配布を構成して、特定のパッチを配布します。

- 1 [パッチ]タブ > 欠落パッチ（または適用可能なパッチ）を開きます。
- 2 配布するパッチにチェックを入れ、「パッチをインストール/公開する」をクリックします。
- 3 構成の名前として任意の名前を指定します（デフォルトのままでも構いません）。
- 4 配布設定にて「配布」を選択し、配布ポリシーを選択します。
- 5 実行設定にて再試行回数、通知、スケジュールを必要に応じて選択します。
- 6 「配布」または「今すぐ配布」をクリックします。

B. 特定のコンピューターの欠落パッチを配布する（パッチの手動配布）

手動配布を構成して、特定のシステムに対してパッチを配布します。

- 1 [システム]タブ のいずれかのビューを開きます。
- 2 欠落パッチをインストールするシステムにチェックを入れ、「欠落パッチのインストール」または「承認済みパッチのインストール」をクリックします。
- 3 構成の名前として任意の名前を指定します（デフォルトのままでも構いません）。
- 4 配布設定にて「配布」を選択し、配布ポリシーを選択します。
- 5 実行設定にて再試行回数、通知、スケジュールを必要に応じて選択します。
- 6 「配布」または「今すぐ配布」をクリックします。

C. 指定した種類のパッチを自動的に配布する（パッチの自動配布）

自動配布を構成して、指定した種類の欠落パッチを自動的に欠落しているコンピューターに配布します。

- 1 [配布]タブ > パッチ配布の自動化を開きます。
- 2 「タスクの作成」をクリックし、OSを選択します。
- 3 配布するパッチの種類にチェックを入れ、必要に応じてアプリケーションの条件を設定します。
- 4 配布設定にて「配布」を選択し、配布ポリシーを選択します。
- 5 配布対象のコンピューターを指定します。
- 6 必要に応じて通知設定を有効化します。
- 7 「保存」をクリックします。
- 8 配布するタイミングを指定し、「次へ」をクリックします。
- 9 「パッチをインストール/公開する」をクリックします。

7. パッチ配布結果の確認

パッチの配布後、[ホーム]タブやレポート等で結果を確認します。

▶ パッチレポート

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=541

▶ 効率的なフィルター条件の設定

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=1195

▶ 必要なパッチを確認したい/配布するパッチを指定したい

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=1136

▶ リリースされた重大・重要パッチを通知したい

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=901

▶ パッチ配布時の帯域消費を抑制したい

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=1095

▶ Windows Updateを無効化したい

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=226

▶ Windows機能更新プログラム（Feature Update）の配布

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/?p=216

8. トラブルシューティング

ご不明な点はドキュメントをご参照いただかずか、またはお問い合わせください。

- ▶ Patch Manager Plus Cloud ナレッジベース

https://www.manageengine.jp/support/kb/Patch_Manager_Plus_Cloud/

お問い合わせ

評価版の使用期間 / 製品ご購入後の技術サポートは、以下のリンクよりご利用ください。

- ▶ 評価版サポート <https://www.manageengine.jp/support/trial.html>

- ▶ 製品ご購入後のサポート <https://www.manageengine.jp/support/purchased.html>

[評価版について]

- ・ご導入にあたっては、かならず評価版によるご検証をお願いいたします。
- ・ご不明な点がございましたら、上記サポートへお問い合わせください。
- ・製品のご購入（ライセンスのご契約）をしていただきますと、当社にてライセンス有効化の処理を実施いたします。これにより、評価版として利用していた環境をそのまま引き続き製品版としてご利用いただけます。
- ・評価版のご利用期間は初回サインアップから30日間です。ライセンスを契約しない場合、評価期間終了後は保守サポートがご利用いただけない無料版に移行します。製品ご利用を終了する場合、エージェントをアンインストールします。

Patch Manager Plus Cloud のライセンスのご購入や変更については、下記までお問い合わせください。

製品提供元

ゾーホージャパン株式会社

神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-6-1 みなとみらいセンタービル13階

TEL : 045-319-4612 (ManageEngine 営業担当)

Webサイト : https://www.manageengine.jp/products/Patch_Manager_Plus/
(オンプレミス版・クラウド版共通のWebサイトです)

E-mail : jp-mesales@zohocorp.com